

(仮称)
相模鉄道本線 (鶴ヶ峰駅付近)
連続立体交差事業

環境影響評価方法書の概要

令和元年10月29日

横浜市

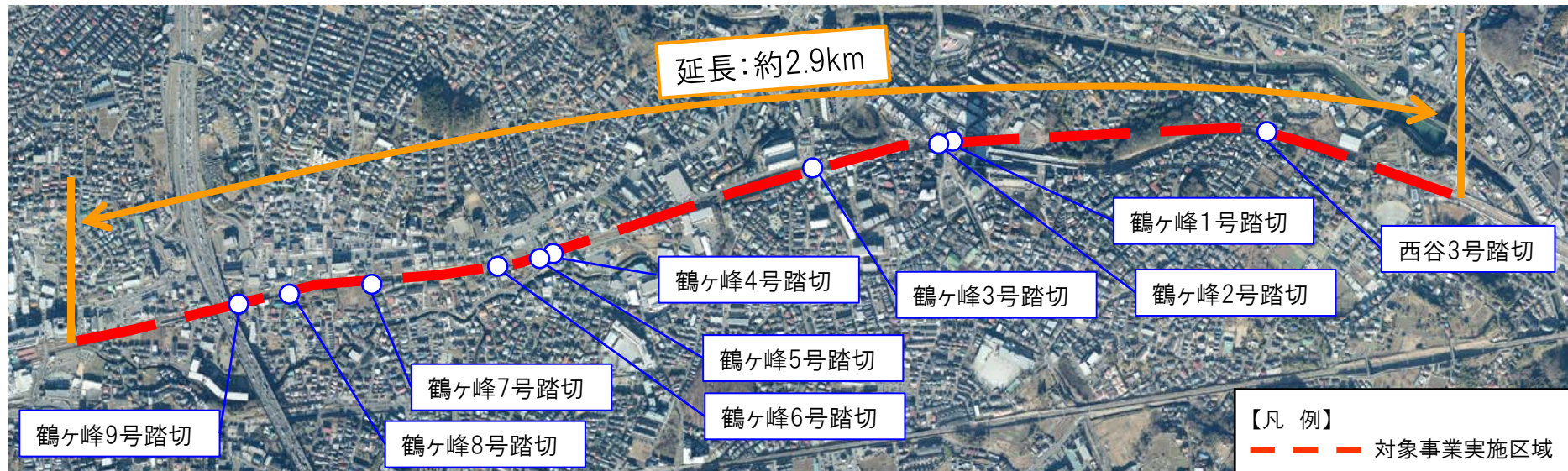
本日の説明内容

1. **都市計画対象事業の計画内容**
2. **配慮書からの変更点**
3. **環境影響要因の抽出、
環境影響評価項目の選定**
4. **調査、予測の手法**
5. **評価の手法**
6. **方法書対象地域**

都市計画対象事業の計画内容

都市計画対象事業の目的・必要性

方法書p. 2-3、2-4



■現状

慢性的な交通渋滞

緊急活動への影響

道路と鉄道の安全性

鉄道によるまちの分断

課題解決のためには・・・
踏切を連続的に除去し課題を一挙に解決できる
連続立体交差事業が効果的！！

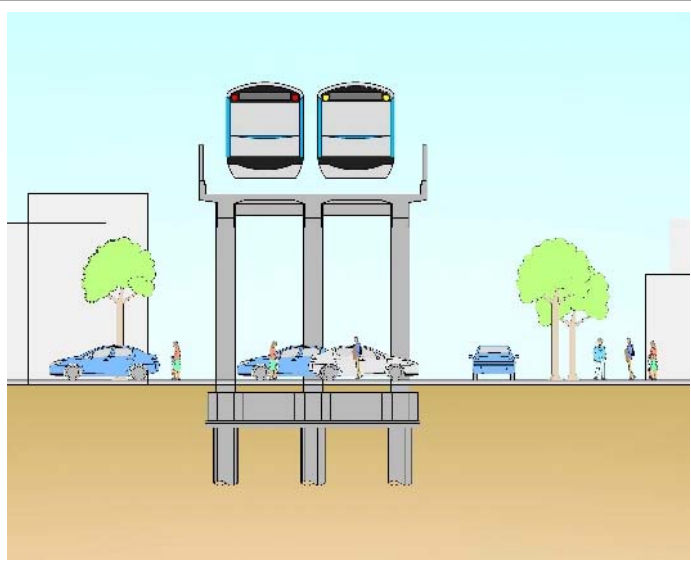
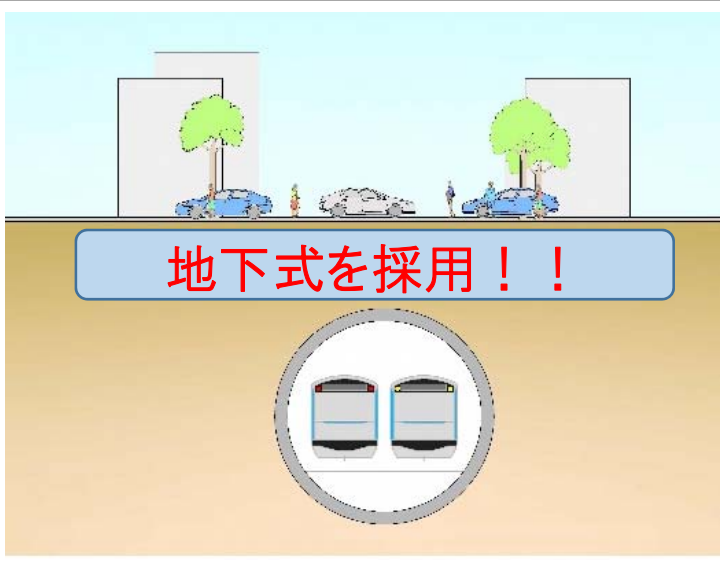
都市計画対象事業の概要

方法書p. 2-1

<p>都市計画決定権者の 名称並びに 当該対象事業を実施 しようとする者の氏名 及び住所</p>	<p>【都市計画決定権者】 横浜市</p> <p>【当該対象事業を実施しようとする者】 名称 横浜市 代表者の氏名 林 文子 主たる事務所の所在地 横浜市中区 港町1丁目1番地</p>
<p>都市計画対象事業の 名称</p>	<p>(仮称)相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続 立体交差事業</p>
<p>都市計画対象事業の 種類、規模</p>	<p>鉄道及び軌道の建設(鉄道の改良) (第1分類事業) 延長:約2.9km</p>

構造形式の検討

方法書p. 2-7、2-8、2-9

	高架式(仮線施工)	地下式
施工イメージ		
事業延長	約2.3km	約2.9km
踏切除却数 (うち開かずの踏切)	8箇所(3箇所)	10箇所(5箇所)
想定事業期間※	約18年	約11年
供用開始目標※	令和22年度(2040年度)	令和15年度(2033年度)

※事業期間及び供用開始予定:同程度の規模の連続立体交差事業により事業期間を算出。
今後、詳細な検討を進めていく中で精査していきます。

構造形式（地下式・高架式）の選定について

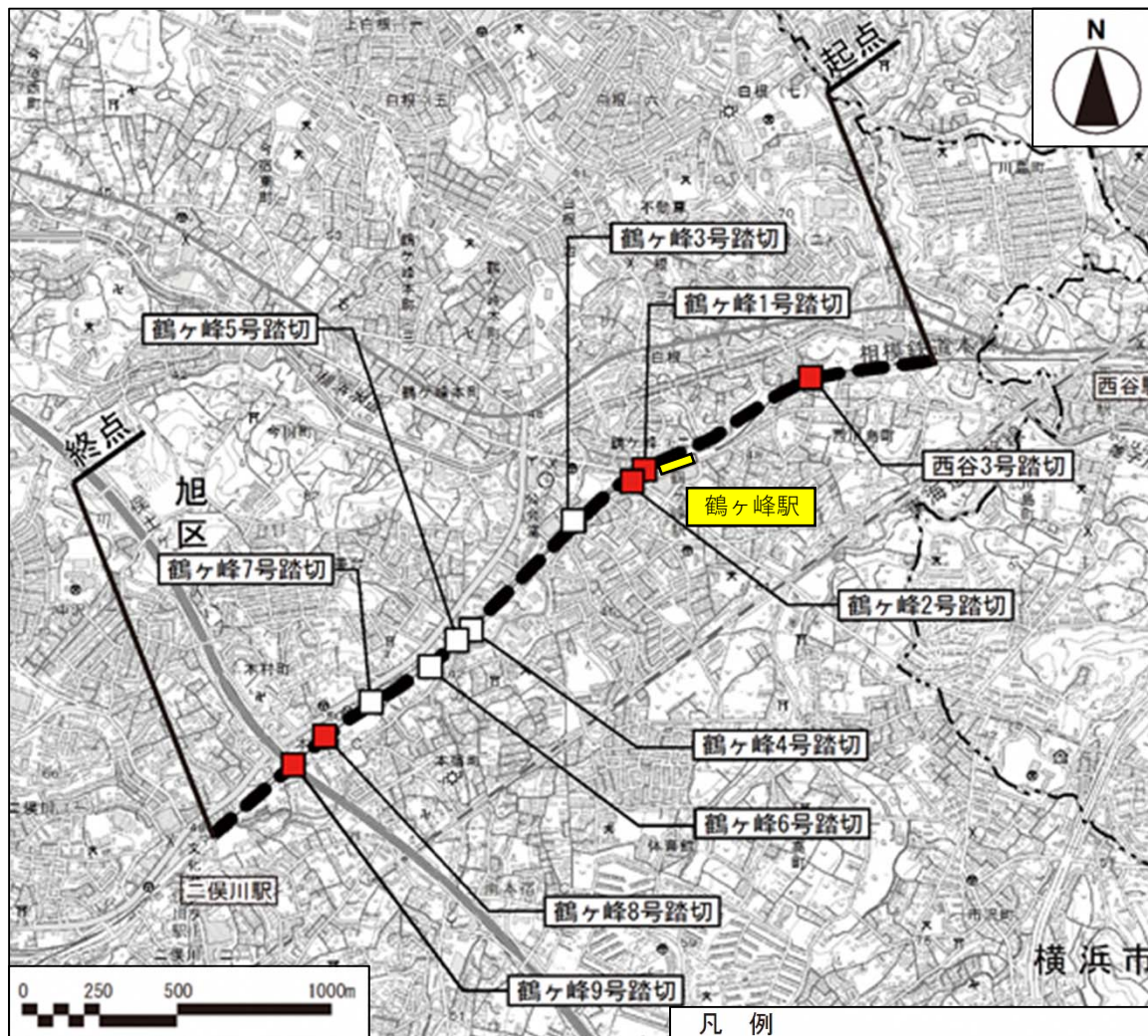
方法書p. 2-7、2-8、2-9

		高架式(仮線施工)	地下式
環境	日影	高架構造物の存在により、日陰に配慮する必要があります。	影響を及ぼすおそれはありません。
	騒音等	周辺の環境に配慮する必要があります。	騒音については、高架式と比べ影響の程度は小さいものとなります。 振動については、影響を及ぼすおそれはありません。
	地盤	地下水位の低下により地盤沈下が生じるおそれは低いものとなります。	地下構造物の存在により地下水位が変化した場合、地盤沈下が生じないように配慮する必要があります。
	景観	高架構造物の存在により、景観に配慮する必要があります。	高架式と比べ影響の程度は小さいと考えられます。
概算事業費		約590億円	約740億円
まちづくり		高架構造物の存在により、まちづくりとしての自由度は地下式と比べ低いものとなります。	まちづくりとしての自由度は高架式と比べ高いものとなります。
総合評価		△	○

地下式を採用！！

都市計画対象事業の内容

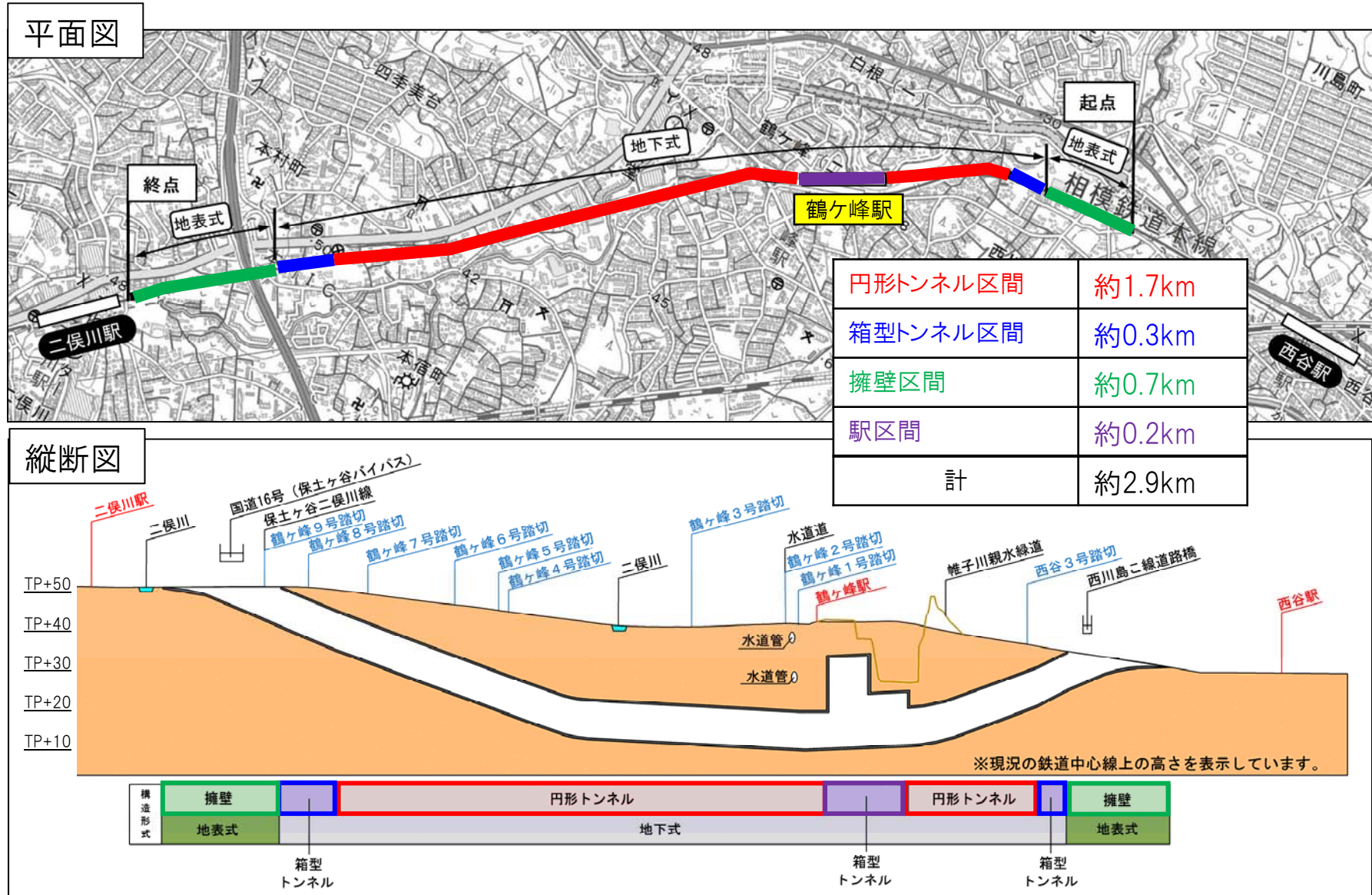
項目	内容
対象事業実施区域	起点:横浜市旭区西川島町 終点:横浜市旭区二俣川2丁目
延長	約2.9km
構造形式	地下式
駅施設	鶴ヶ峰駅 (ホームを地下構造で新設)
単線、複線の別	複線
立体交差化による踏切除却数	10箇所 (うち「開かずの踏切」5箇所)
事業予定期間	令和5年度～ 令和15年度(予定)
供用開始予定時期	令和15年度(予定)



※開かずの踏切とは・・・
ピーク時間の遮断時間が
合計40分/時以上の踏切

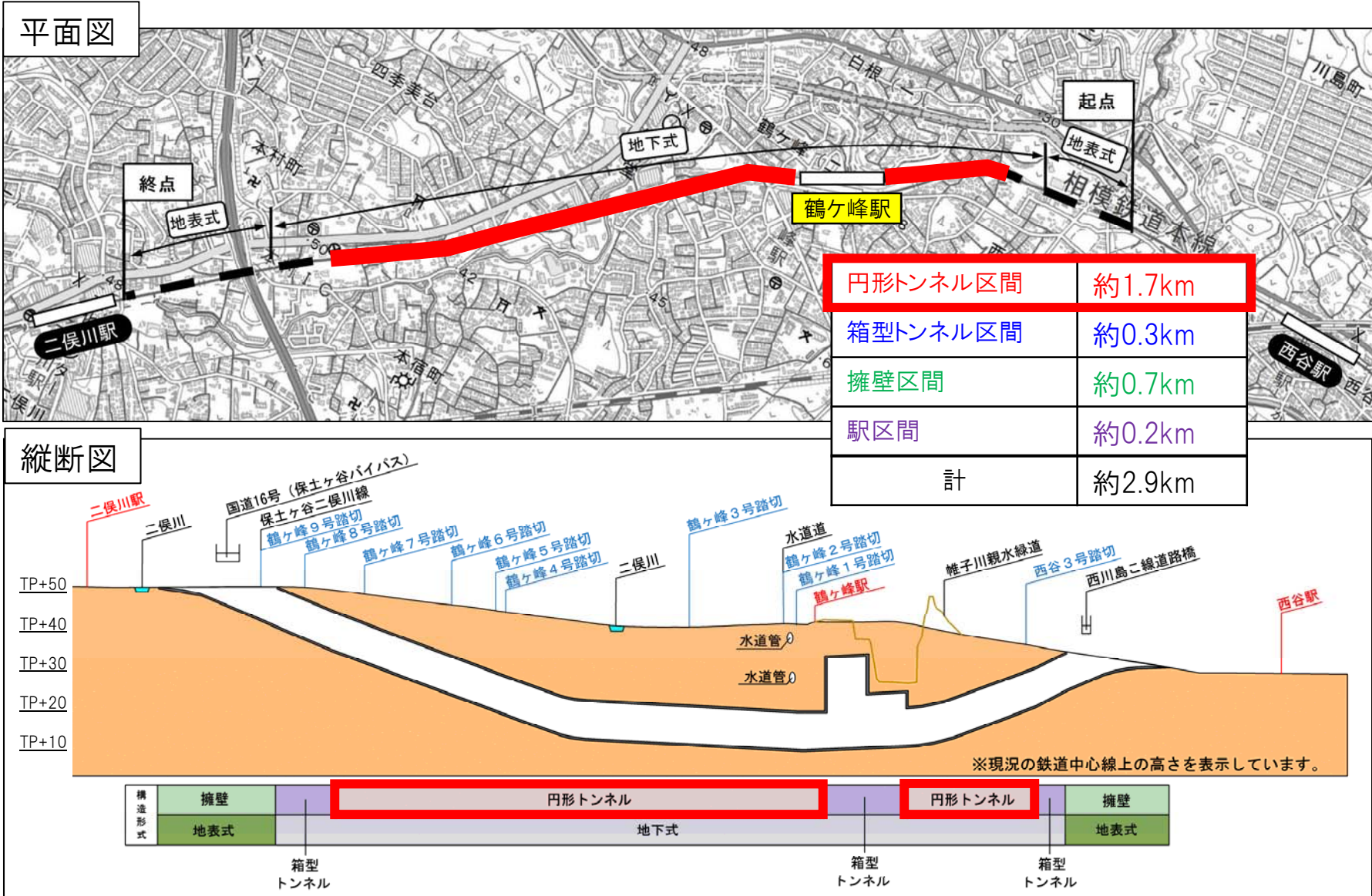
- 凡例
- : 対象事業実施区域
 - - - : 区界
 - : 除却される踏切
 - : 除却される踏切 (開かずの踏切)

都市計画対象事業の内容



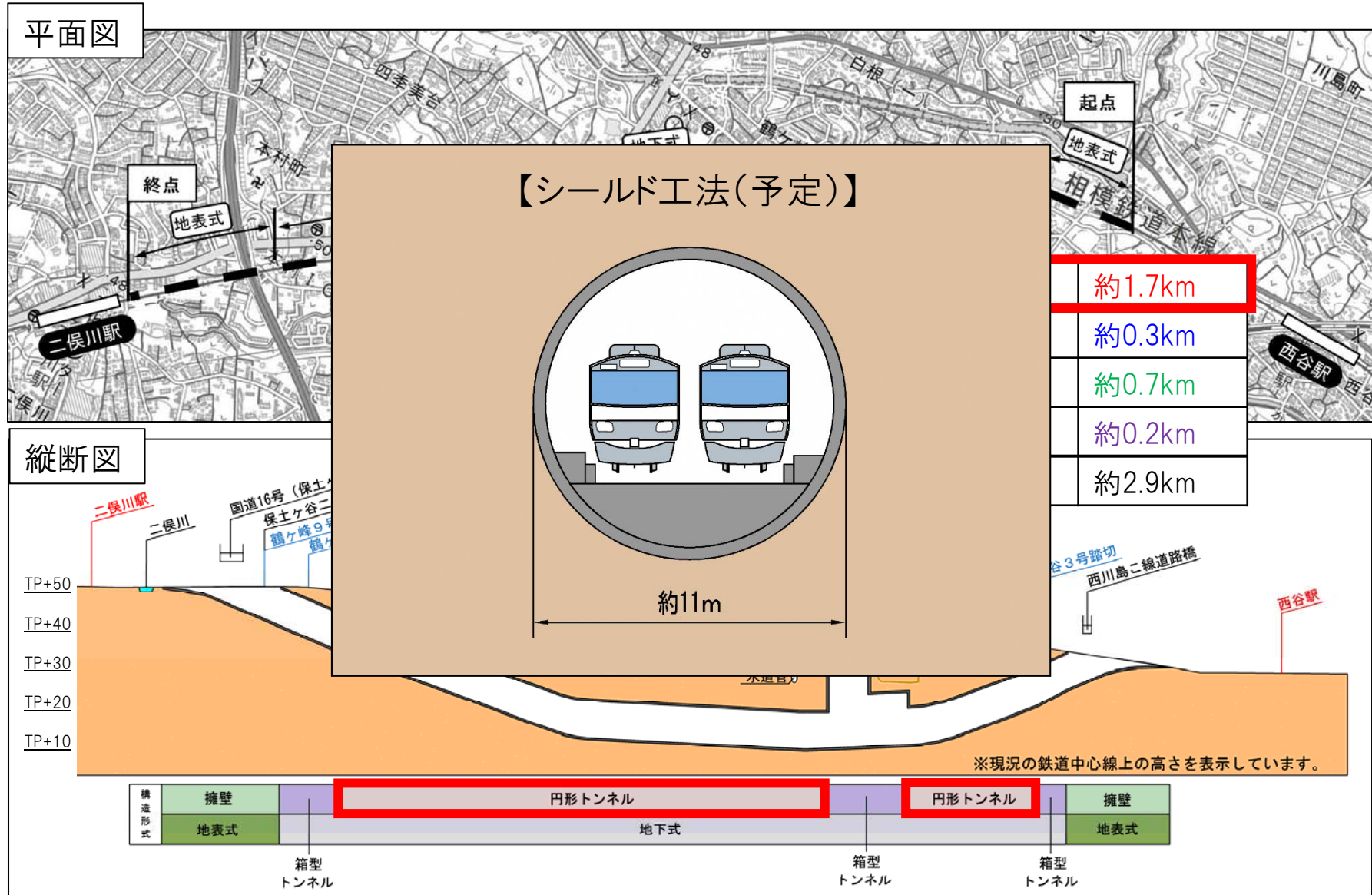
都市計画対象事業の内容

方法書p. 2-17、2-18、2-19



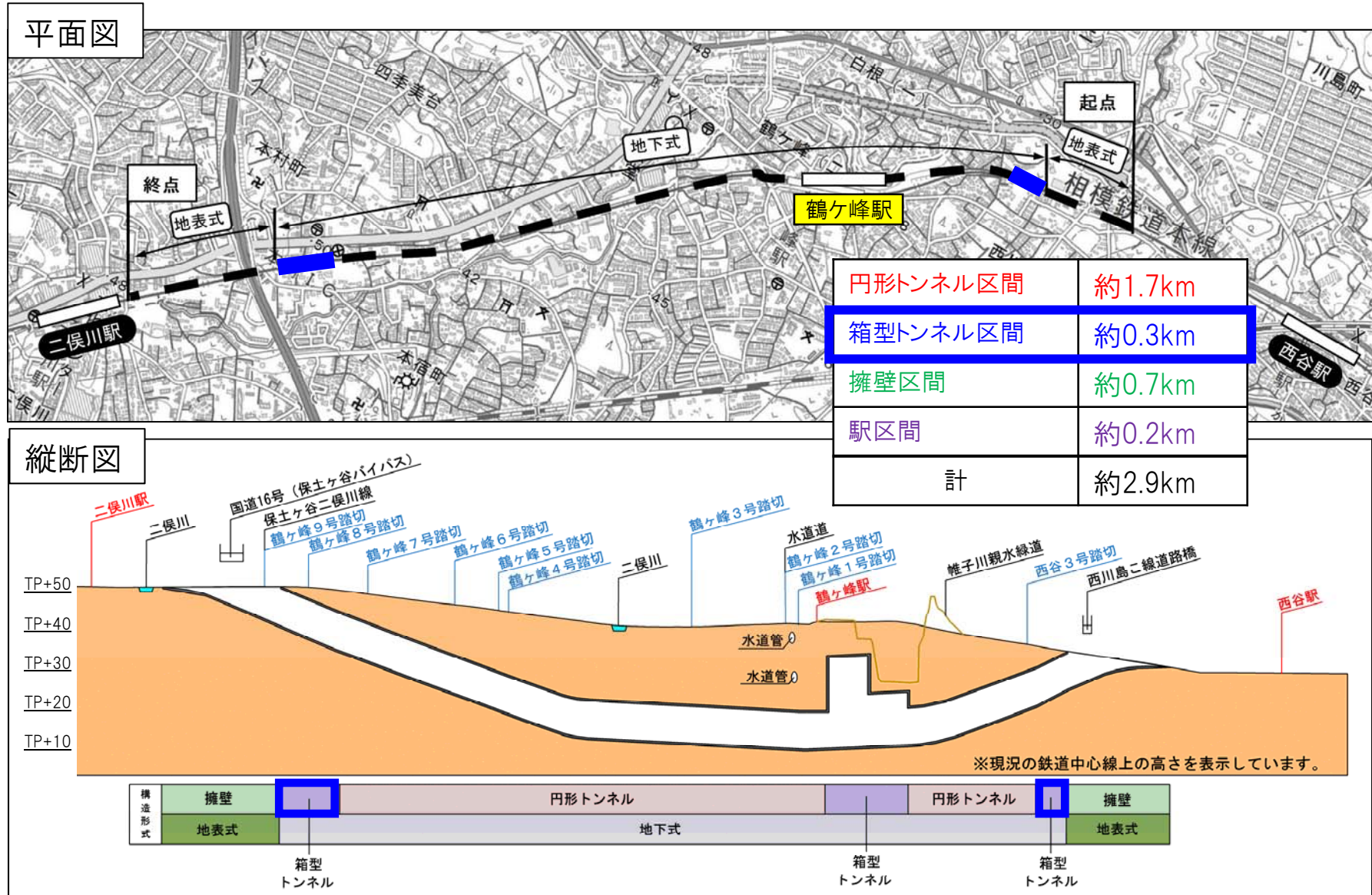
都市計画対象事業の内容

方法書p. 2-17、2-18、2-19



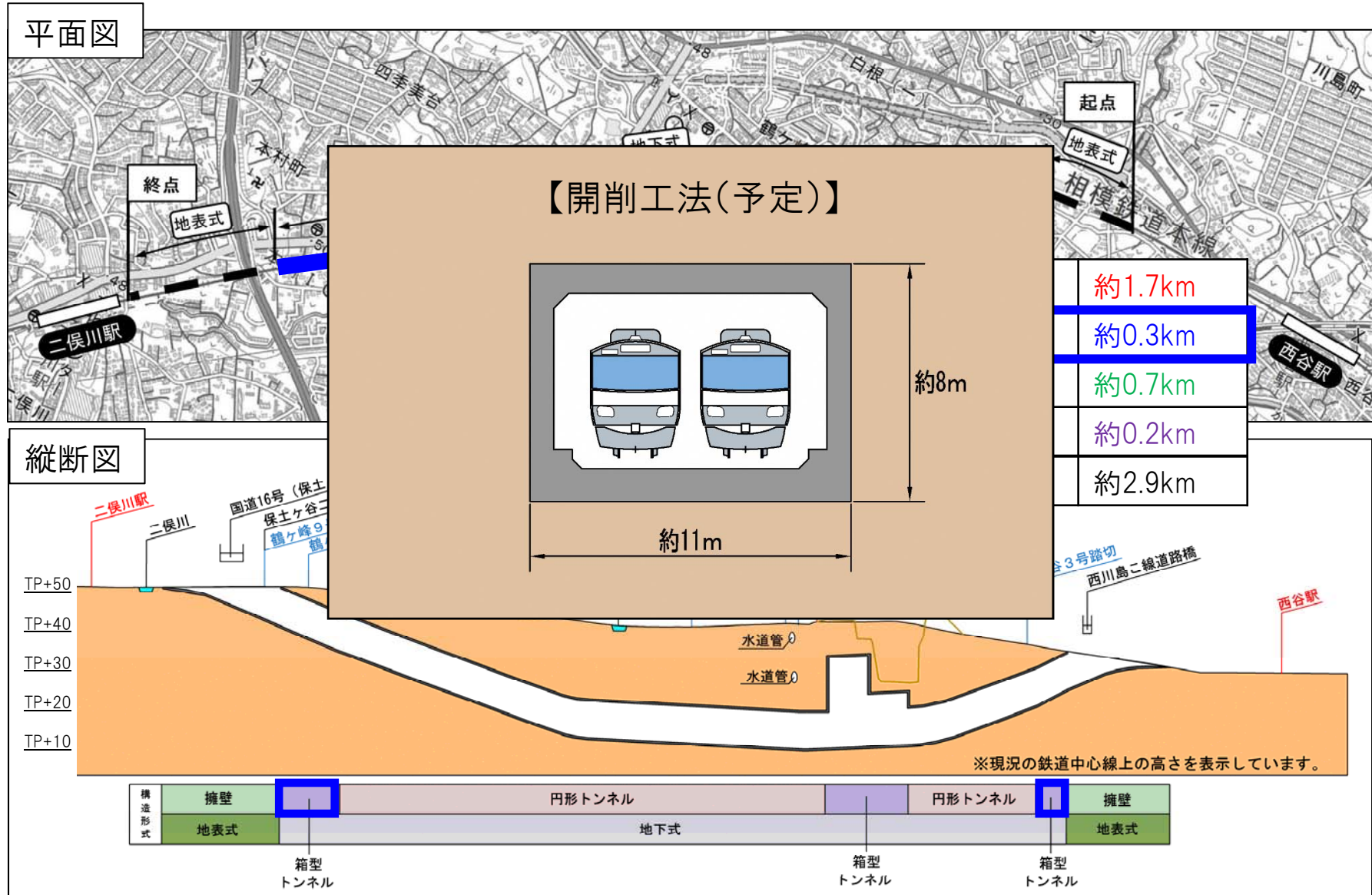
都市計画対象事業の内容

方法書p. 2-17、2-18、2-20

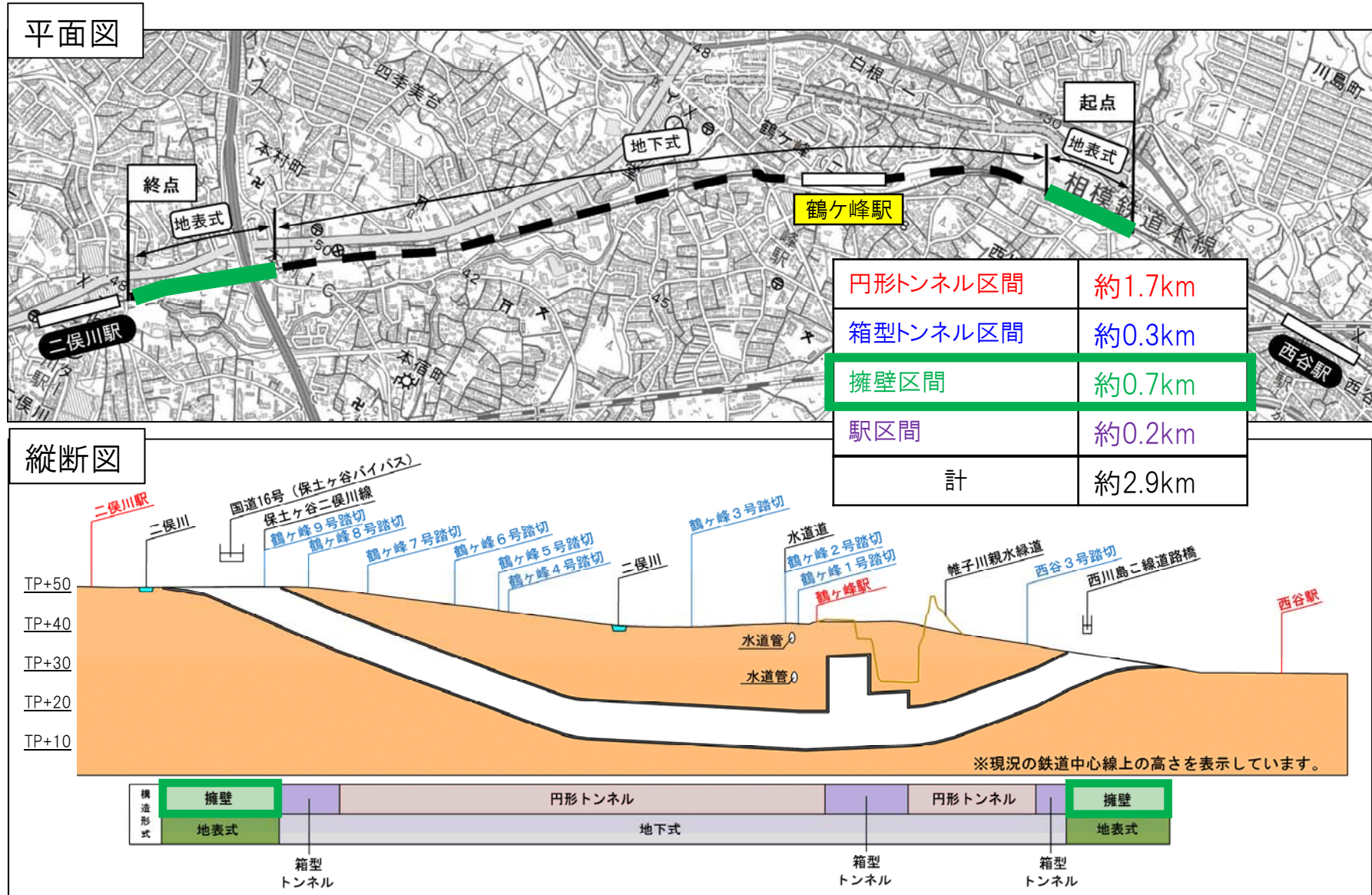


都市計画対象事業の内容

方法書p. 2-17、2-18、2-20

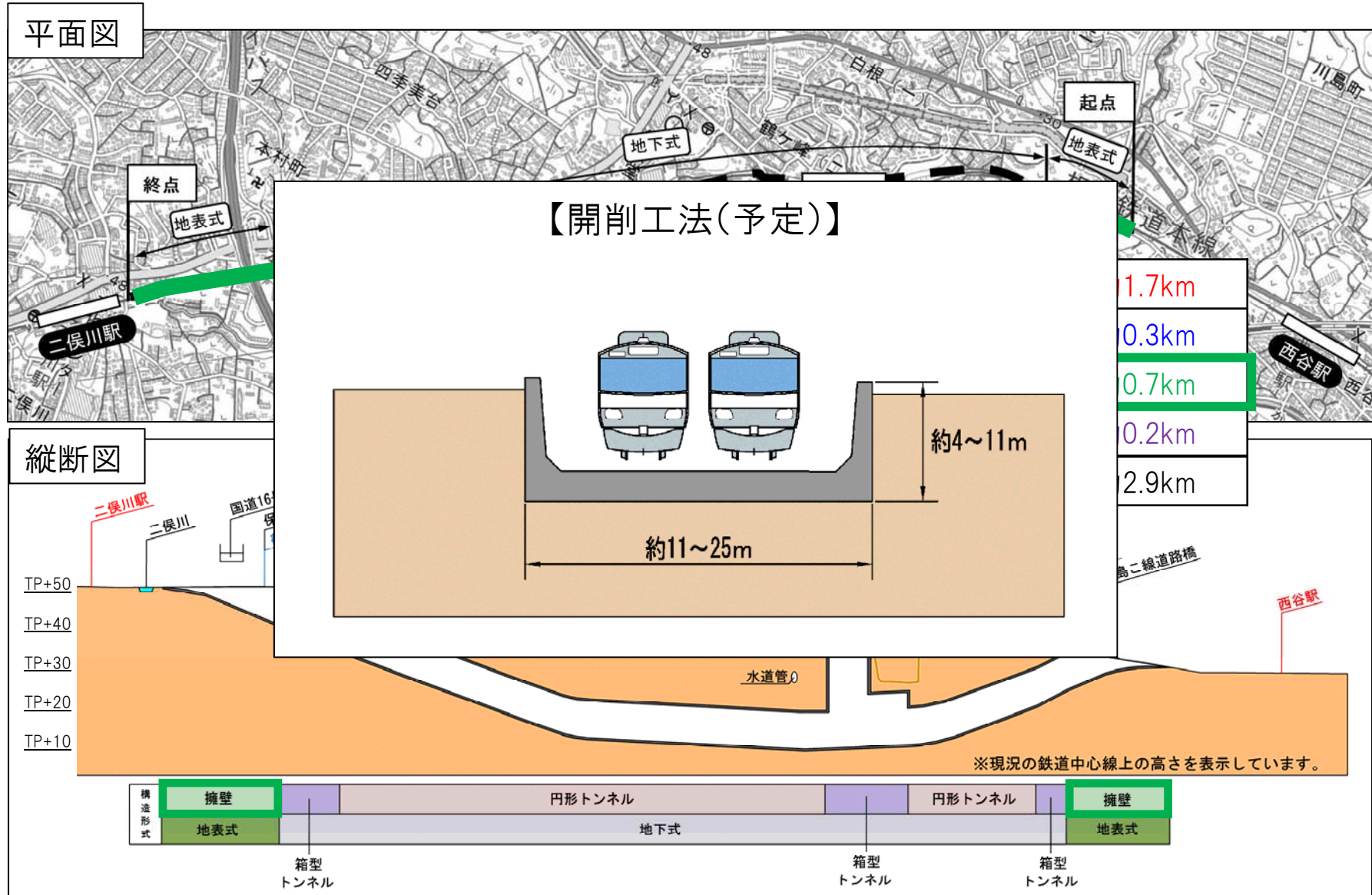


都市計画対象事業の内容



都市計画対象事業の内容

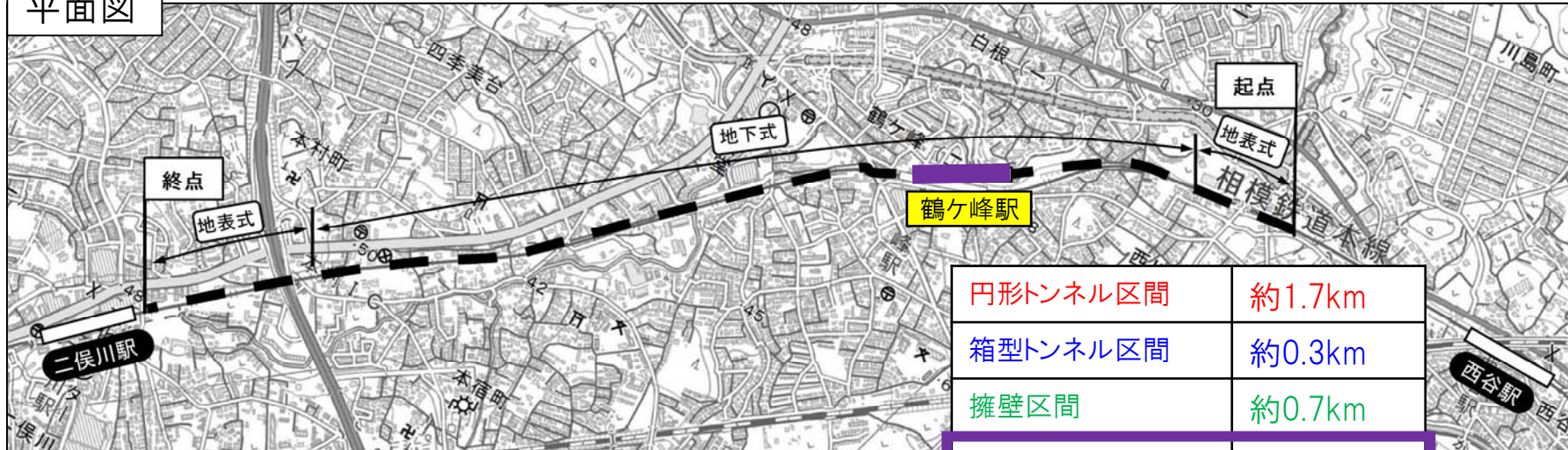
方法書p. 2-17、2-18、2-20



都市計画対象事業の内容

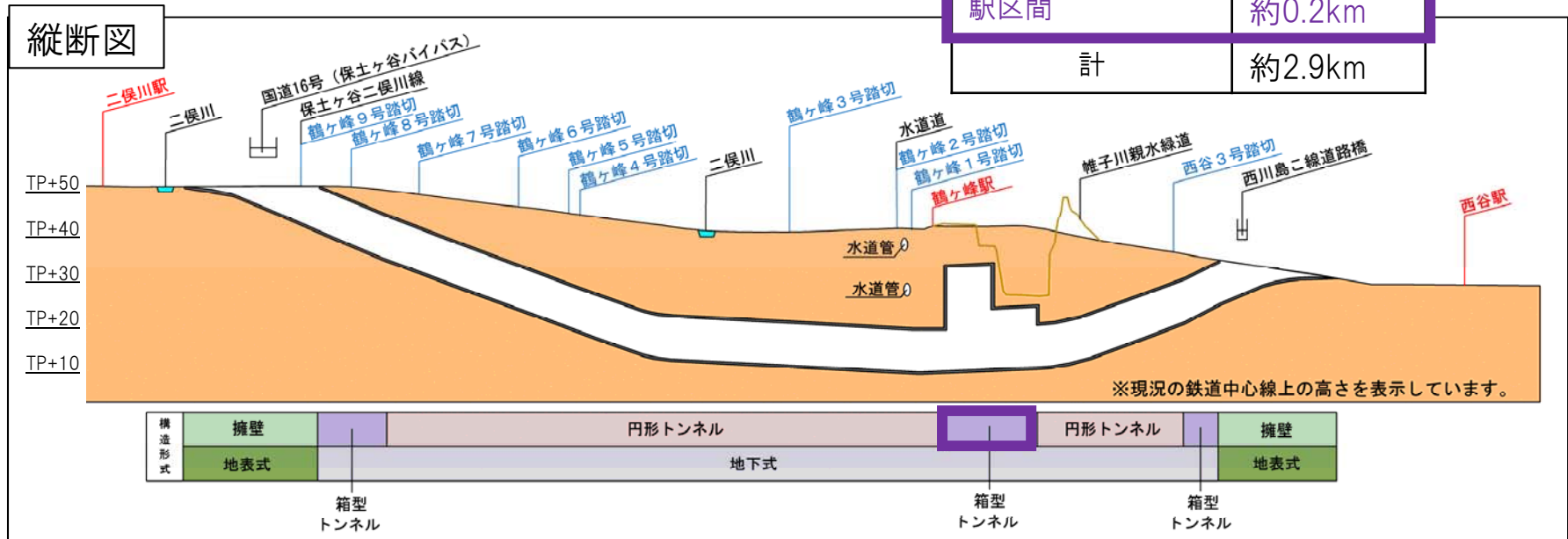
方法書p. 2-17、2-18、2-20

平面図



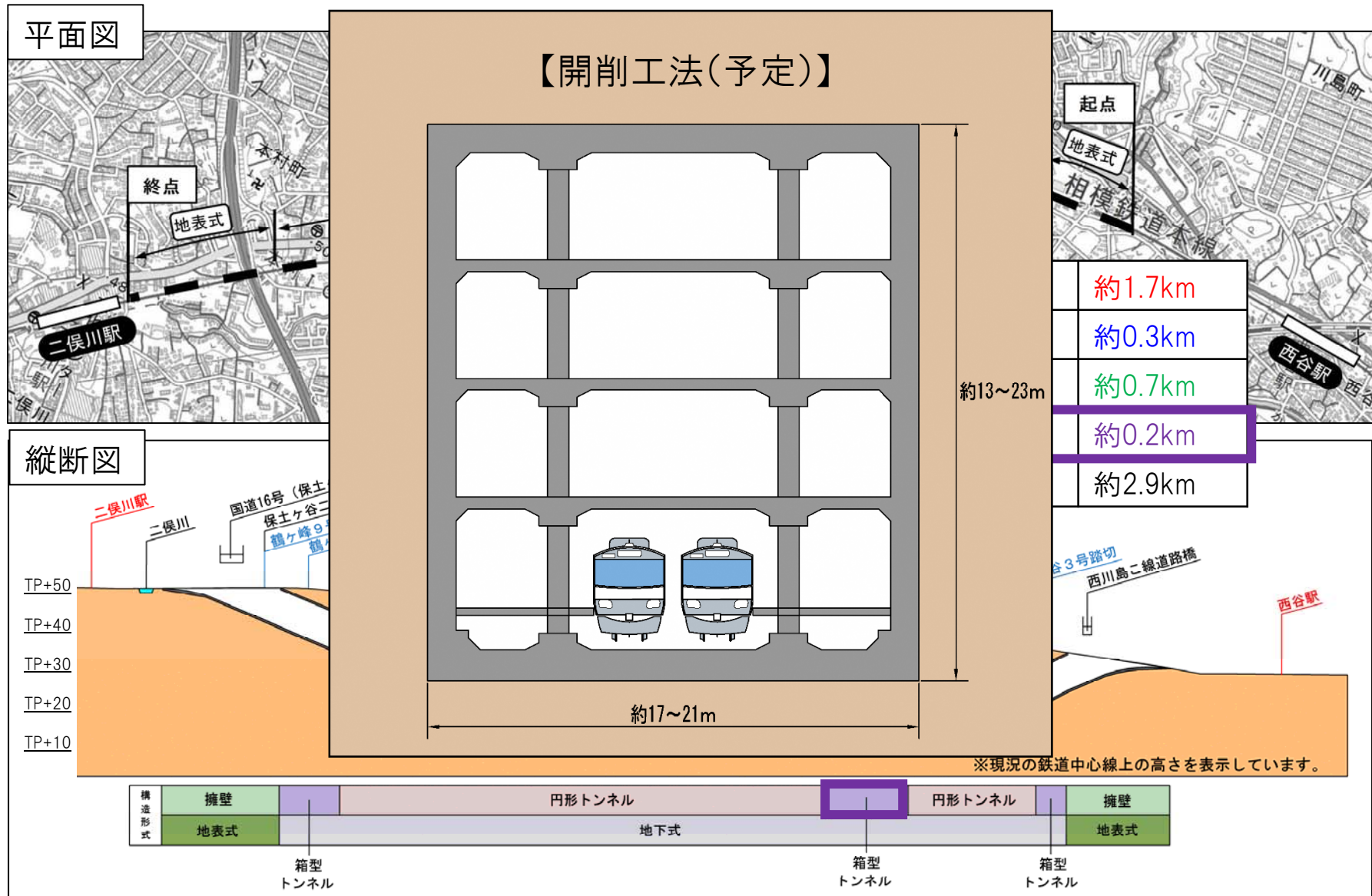
円形トンネル区間	約1.7km
箱型トンネル区間	約0.3km
擁壁区間	約0.7km
駅区間	約0.2km
計	約2.9km

縦断図



都市計画対象事業の内容

方法書p. 2-17、2-18、2-20



配慮書からの変更点

配慮書の内容を変更した主な事項

■ 都市計画対象事業の内容

変更点	概要
都市計画対象事業の規模	延長:約2.7km ⇒ 約2.9km
構造形式の選定	地下式を最適案として選定
対象事業実施区域平面図、 縦断図	新たに記載
駅施設の概要	
浸水防止対策	
地球温暖化対策	
生物多様性の保全	項を起こし、現時点での方針等を記載
緑の保全と創造	
施工計画	項を起こし、現時点での工事概要等を記載

配慮市長意見の概要①

■ 全般的事項

意見の内容		都市計画決定権者の見解
(1)	方法書以降の図書の作成について、根拠となる情報を明確にし、分かりやすく丁寧な説明に努めること。	根拠を明確にし、分かりやすく丁寧な説明となるよう努めます。
(2)	配慮事項に対する配慮の内容を事業計画に反映させるとともに、検討する事項について、検討状況を方法書に記載すること。	配慮の内容については、適切に事業計画に反映していきます。 現時点での検討状況について、方法書に記載しました。
(3)	今後の事業の進展において、横浜市の最新計画等と整合を図る等、適時、適切な配慮内容となるよう努めること。	事業の進捗にあわせ、適時、適切な配慮内容となるよう努めます。
(4)	事業の影響等について、積極的な情報提供、丁寧な説明に努めること。	事業の進捗に応じた積極的な情報提供や丁寧な説明に努めます。
(5)	構造形式の選定について、比較検討した結果を方法書に示すこと。	比較検討の結果について、方法書に記載しました。
(6)	地下化又は高架化により生じる新たな空間について、緑化等の環境配慮を行うよう検討すること。 鶴ヶ峰駅北口周辺のまちづくりとの連携を図るよう努めること。	環境影響評価実施時点で空地の具体的な土地利用計画は定まっていますが、鶴ヶ峰駅北口周辺のまちづくりとの連携を図りつつ、環境にも配慮した土地利用計画となるよう、調整していきます。

配慮市長意見の概要②

方法書p. 4-8、4-9

■配慮指針に掲げられている配慮事項

意見の内容		都市計画決定権者の見解
(1)	① 土地利用状況について、土地の利用形態の現状把握に努めること。	土地の利用形態の現状について、方法書に記載しました。
	② 帷子川親水緑道の動物について、更なる情報収集により、現状把握を行うこと。	準備書段階までに更なる情報収集を行い、現状把握に努めます。
(2)	① 工事計画の策定にあたり、地盤特性等を十分に把握するとともに、周辺に影響が生じないよう適切な対策を検討すること。	地盤特性等を十分に把握した上で設計及び工事計画の策定を行うと共に、鉄道事業者と調整や情報共有を図りながら事業を実施します。
	② 周辺道路について、交通集中の回避を図る等、適切な対策を検討すること。	交通集中の回避等、適切な対策を検討していきます。
(3)	① 省エネルギー型機器等について、最善の技術及び製品を用いるとともに、導入後も定期的に内容を見直すよう努めること。	最善の技術及び製品を用いるとともに、導入後も定期的に内容を見直すよう、鉄道事業者と調整していきます。
(4)	① 低炭素型、低燃費型の工事用車両、建設機械の使用を検討すること。	低炭素型あるいは低燃費型の工事用車両及び建設機械の使用を検討していきます。
(5)	① ヒートアイランド現象の抑制に資する対策を積極的に導入すること。	残地が発生する場合には、緑化等の可能性について、鉄道事業者と調整しながら検討します。

環境影響要因の抽出、 環境影響評価項目の選定

環境影響要因の抽出

区分		環境影響要因	抽出の理由
工事中		建設機械の稼働	・鉄道施設の建設に伴い、建設機械が対象事業実施区域で稼働する
		工事用車両の走行	・資機材の運搬や廃棄物等の搬出を行う車両が、周辺道路を運行する
		列車の走行(工事中)	・工事の実施に伴い、一部の区間に工事桁を仮設する
		切土工等、トンネル工事 又は 既存の工作物の除去	・工事の実施に伴い、地表を改変する ・トンネル工事に伴い、地下を改変する ・工事の実施に伴い、既存の工作物を解体・撤去する
供用時	施設の存在	鉄道施設(地表式)の存在	・鉄道施設(地表式)が、地上部に出現する
		鉄道施設(地下式)の存在	・鉄道施設(地下式)が、地下部に出現する ・地下式の一部に帷子川親水緑道が含まれ、工事後に復旧する地下構造物直上の地表の状況が変化する
	施設の供用	列車の走行(地上)	・列車が地上を走行する
		列車の走行(地下)	・列車が地下を走行する
		駅舎の供用	・鉄道利用者や駅係員等が、駅舎を使用する

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表①

環境影響要因 環境影響評価項目 細目			区分				供用時				
			工事中				施設の存在		施設の供用		
			建設機械の稼働	工事用車両の走行	列車の走行(工事中)	切土工等、トンネル工事 又は既存の工作物の除去	鉄道施設(地表区間)の存在	鉄道施設(※地下区間)の存在	列車の走行(地上)	列車の走行(地下)	駅舎の供用
地球環境への 負荷の低減	温室効果ガス	温室効果ガス	○	○	-	-	-	-	-	-	
身近な 自然環境の 保全・再生 ・創造	生物 多様性	動物	-	-	-	○	-	○	-	-	
		植物	-	-	-	○	-	○	-	-	
		生態系	-	-	-	○	-	○	-	-	
	水循環	地下水位	-	-	-	○	-	○	-	-	
河川の 形態、流量		-	-	-	○	-	-	-	-		
安心して 快適に生活 できる 生活環境の 保全	廃棄物・ 建設発生土	産業廃棄物	-	-	-	○	-	-	-	-	
		建設発生土	-	-	-	○	-	-	-	-	
	大気質	大気汚染	○	○	-	-	-	-	-	-	

※工事後に復旧する地下構造物直上の地表を含む。

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表②

環境影響要因 環境影響評価項目 細目			工事中				供用時				
			建設機械の稼働	工事用車両の走行	列車の走行(工事中)	切土工等、トンネル工事 又は既存の工作物の除去	施設の存在		施設の供用		
							鉄道施設(地表区間)の存在	鉄道施設(※地下区間)の存在	列車の走行(地上)	列車の走行(地下)	駅舎の供用
安心して 快適に生活 できる 生活環境の 保全	水質・底質	公共用水域の水質	—	—	—	○	—	—	—	—	—
	騒音	騒音	○	○	○	—	—	—	○	—	—
	振動	振動	○	○	—	—	—	—	○	○	—
	地盤	地盤沈下	—	—	—	○	—	○	—	—	—
	安全	土地の安定性		—	—	—	○	—	—	—	—
地下埋設物			—	—	—	○	—	—	—	—	—
快適な 地域環境の 確保	地域社会	交通混雑	—	○	—	—	—	—	—	—	—
		歩行者の安全	—	○	—	—	—	—	—	—	—
	景観	景観	—	—	—	—	○	○	—	—	—
	触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	—	—	—	○	—	○	—	—	—

※工事後に復旧する地下構造物直上の地表を含む。

調査、予測の手法

■ 調査手法

調査項目※	調査方法	
・温室効果ガスに係る 原単位の把握	資料	「温室効果ガス排出量算定・報告 マニュアル 」等により、 予測式及び原単位 を整理
・ 排出抑制対策 の実施状況	資料	横浜市で取り組んでいる 地球温暖化対策等 を整理

※主な調査項目を記載

■ 予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
建設機械 の稼働に伴う温室効果ガスの 排出量	工事中	対象事業実施区域	建設機械の種類、台数等を整理の上、「温室効果ガス排出量算定・報告 マニュアル 」等に基づき 算定
工事中車両 の走行に伴う温室効果ガスの 排出量			工事中車両の種類、台数等を整理の上、「温室効果ガス排出量算定・報告 マニュアル 」等に基づき 算定

生物多様性（動物）

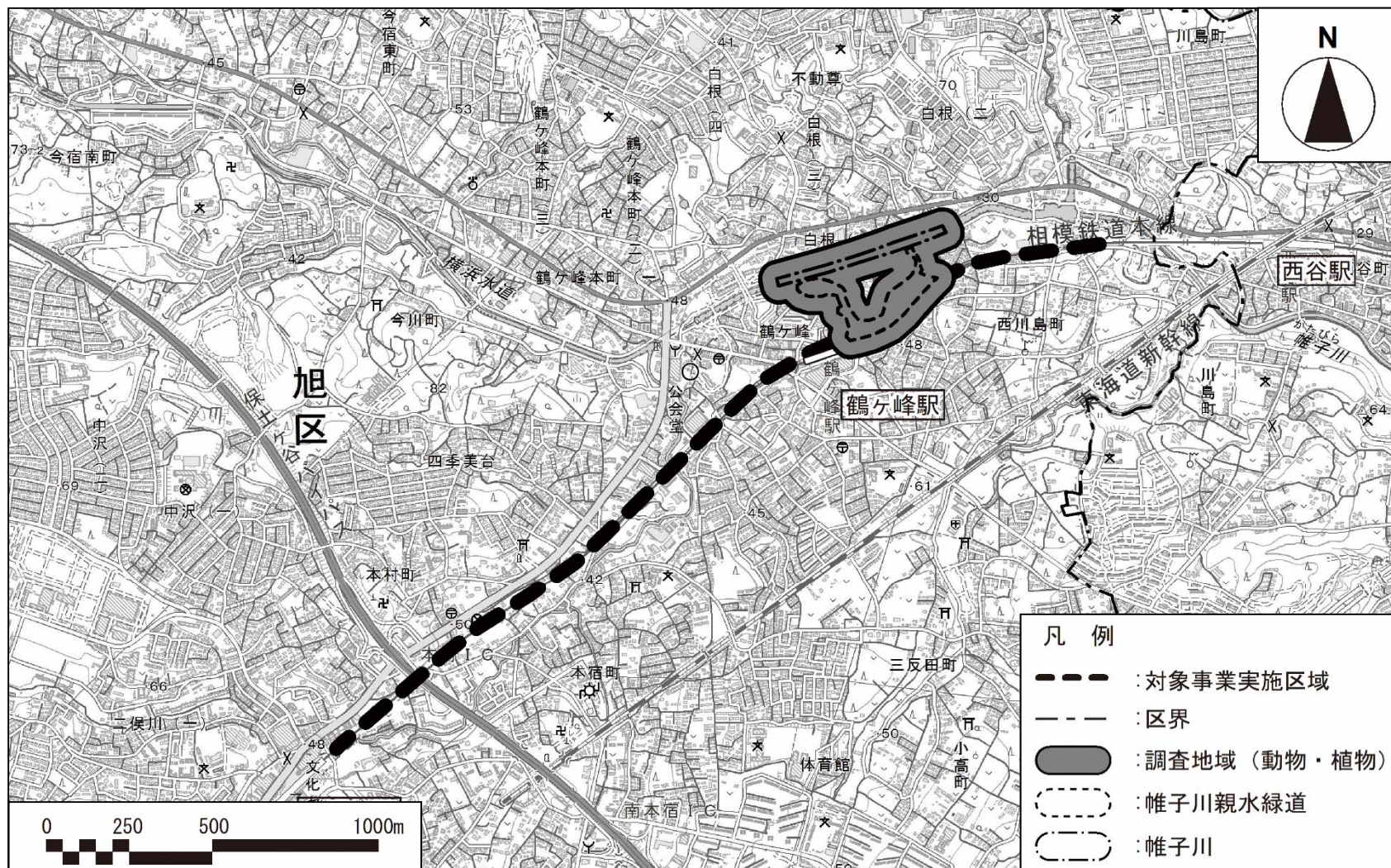
方法書p. 6-3

■調査手法

調査項目※	調査方法	
<p>動物の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物相 ・注目すべき動物種 及び生息地の状況 	資料 現地	<p>既存資料の収集・整理及び現地踏査</p>
	現地	<p>陸生動物</p> <p>【動物相調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類 任意観察法、フィールドサイン法、トラップ法、無人撮影法及び夜間調査(コウモリ類)により調査 ・鳥類 任意観察法、ラインセンサス法、定点観察法及び夜間調査(フクロウ目)により調査 ・両生類及び爬虫類 任意観察法により調査 ・昆虫類 任意観察法、任意採取法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法により調査 <p>水生生物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚類 任意観察法、任意採取法、トラップ法により調査 ・底生動物 任意観察法及び定量調査により調査

※主な調査項目を記載

■調査地域



■ 予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域 ・ 地点	予測方法
工事の実施に伴う陸生動物の動物相、水生生物相の変化の内容及びその程度	工事期間中	現地調査地域	調査で把握した陸生動物の動物相、水生生物相の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

■ 予測手法(供用時)

予測項目	予測時期	予測地域 ・ 地点	予測方法
鉄道施設(地下式※)の存在に伴う陸生動物の動物相、水生生物相の変化の内容及びその程度	鉄道施設完成時点	現地調査地域	調査で把握した陸生動物の動物相、水生生物相の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

※工事後に復旧する地下構造物直上の地表を含む。

■調査手法

調査項目※	調査方法	
<p>植物の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物相 ・植生 ・注目すべき植物種及び植物群落の状況 	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	<p>陸生植物</p> <p>【植物相調査】 任意観察法により調査</p> <p>【植生調査】 任意観察法及びコドラート法により調査</p> <p>水生植物</p> <p>【付着藻類調査】 任意観察法及びコドラート法により調査</p>

※主な調査項目を記載

■ 予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域 ・ 地点	予測方法
工事の実施に伴う陸生植物の植物相、水生植物の植物相の変化の内容及びその程度	工事期間中	現地調査地域	調査で把握した陸生植物の植物相、水生植物の植物相の状況と 施工計画 を重ね合わせ、 影響の程度 を定性的に予測

■ 予測手法(供用時)

予測項目	予測時期	予測地域 ・ 地点	予測方法
鉄道施設(地下式※)の存在に伴う陸生植物の植物相、水生植物の植物相の変化の内容及びその程度	鉄道施設完成時点	現地調査地域	調査で把握した陸生植物の植物相、水生植物の植物相の状況と 事業計画 を重ね合わせ、 影響の程度 を定性的に予測

※工事後に復旧する地下構造物直上の地表を含む。

■調査手法

調査項目※	調査方法	
生態系の状況 ・生態系を構成する要素の状況 ・食物連鎖の状況	資料 現地	動物の状況及び植物の状況の調査結果及び現地踏査により、生態系の状況を把握

※主な調査項目を記載

■ 予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域 ・ 地点	予測方法
工事の実施に伴う 生態系の状況の変化の 内容及びその程度	工事 期間中	現地調査 地域	調査で把握した生態系の状況と 施工計画を重ね合わせ、 影響の程度を定性的に予測

■ 予測手法(供用時)

予測項目	予測時期	予測地域 ・ 地点	予測方法
鉄道施設(地下式※)の存在に伴う生態系の状況の変化の内容及びその程度	鉄道施設 完成時点	現地調査 地域	調査で把握した生態系の状況と 事業計画を重ね合わせ、 影響の程度を定性的に予測

※工事後に復旧する地下構造物直上の地表を含む。

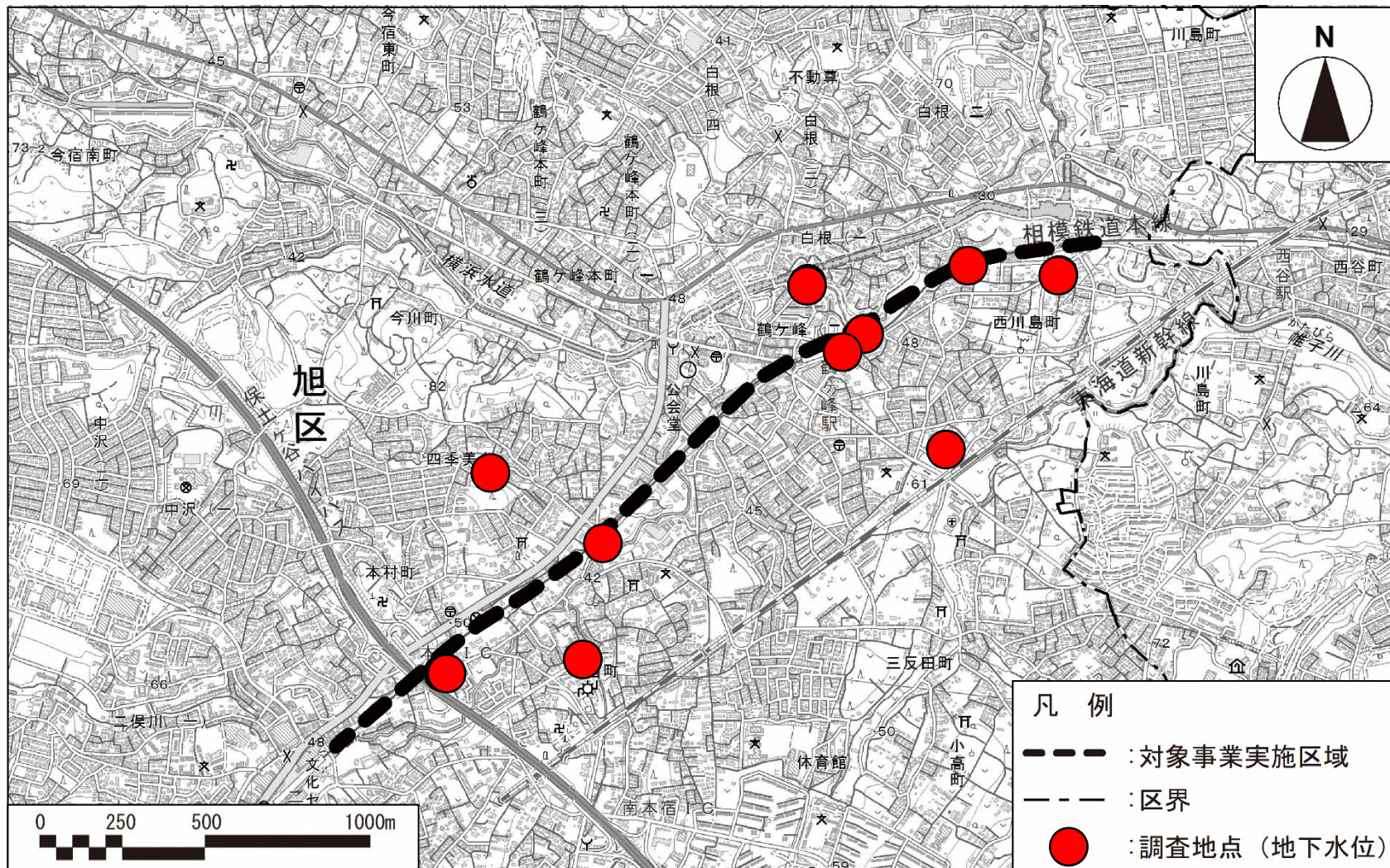
■調査手法

調査項目※	調査方法	
地下水の状況 ・地下水の水位及び流動 ・帯水層の状況	資料	既存資料の収集・整理
	現地	観測井を設置し、地下水位を把握

※主な調査項目を記載

水循環（地下水位）

■調査地域



水循環（地下水位）

方法書p. 6-10

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事の実施に伴い変化する地下水位	工事による影響が最大となる時期	対象事業実施区域周辺	地下水の状況、帯水層の状況等と施工計画を踏まえ、数値解析モデルを用いて、地下水位の変化を予測

■ 予測手法（供用時）

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
鉄道施設（地下式）の存在に伴い変化する地下水位	地下構造物完成後	対象事業実施区域周辺	地下水の状況、帯水層の状況等と事業計画を踏まえ、数値解析モデルを用いて、地下水位の変化を予測

水循環（河川の形態・流量）

方法書p. 6-12

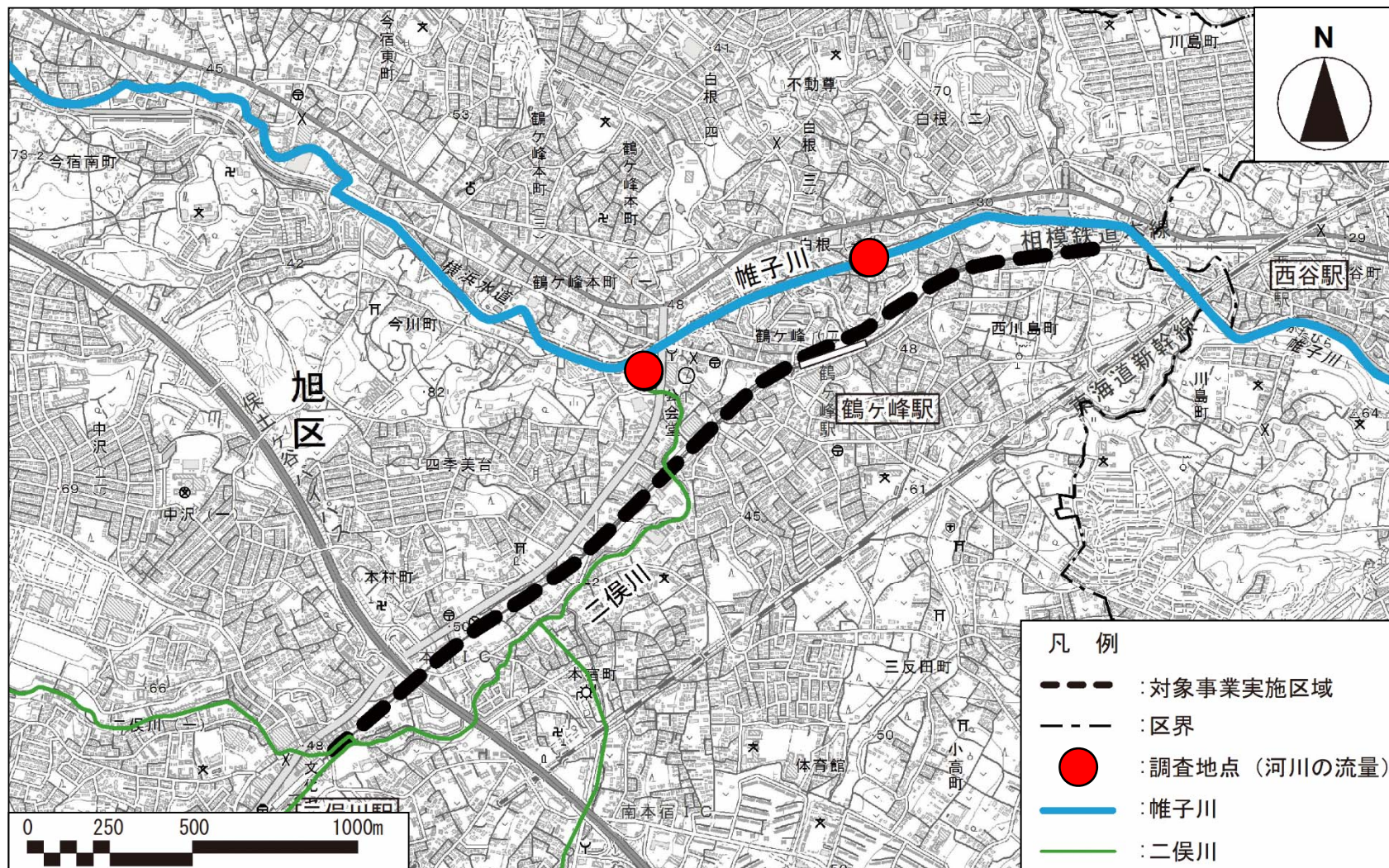
■調査手法

調査項目※	調査方法	
河川の状況 ・河川の形態 ・河川の流量	資料	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	「水質調査方法」に定める方法に準拠し、河川の流量を把握

※主な調査項目を記載

水循環（河川の形態・流量）

■調査地域



■ 予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事の実施に伴い変化する河川の流量	工事による影響が最大となる時期	工事排水を排出する公共用水域(河川)	工事排水を排出する河川の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

■調査手法

調査項目※	調査方法	
廃棄物及び建設発生土の 処理処分の状況 ・種類別発生量 ・資源化の状況 ・廃棄物の処理状況	資料	横浜市における廃棄物及び建設発生土の処理状況等を、 既存資料の収集・整理 により把握

※主な調査項目を記載

■予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域 ・ 地点	予測方法
工事の実施により発生する 産業廃棄物	工 事 期 間 中	対 象 事 業 実 施 区 域	施工計画を基に発生量を推定すると共に、本事業で実行可能な再利用等の方法や、処理方法等を整理
工事の実施により発生する 建設発生土			

■調査手法

調査項目※	調査方法	
大気質の状況 ・窒素酸化物 ・浮遊粒子状物質	資料	対象事業実施区域近傍の 常時監視測定局のデータの収集・整理
気象の状況 ・風向、風速 ・日射量 ・放射収支量	資料	
大気汚染物質の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料	既存資料の収集・整理
	現地	自動車断面交通量を測定 ・平日(24時間)×1回

※主な調査項目を記載

■ 予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
建設機械の稼働に伴う大気質濃度	建設機械の稼働による影響が最大となる時期	地上で建設機械が稼働する地域周辺の住居等の分布状況等を考慮した地点	「道路環境影響評価の技術手法」に示されている予測手法に準じ、大気拡散式により、年平均値を予測
工事用車両の走行に伴う大気質濃度	工事用車両の走行による影響が最大となる時期	工事用車両の主要運行ルートとなる道路の敷地境界で、住居等の分布状況等を考慮した地点	

■調査手法

調査項目※	調査方法	
水質の状況 ・公共用水域の水質の状況	現地	「水質汚濁に係る環境基準について」に定める方法に準拠し、浮遊物質質量及び水素イオン濃度を把握

※主な調査項目を記載

■予測手法(工事中)

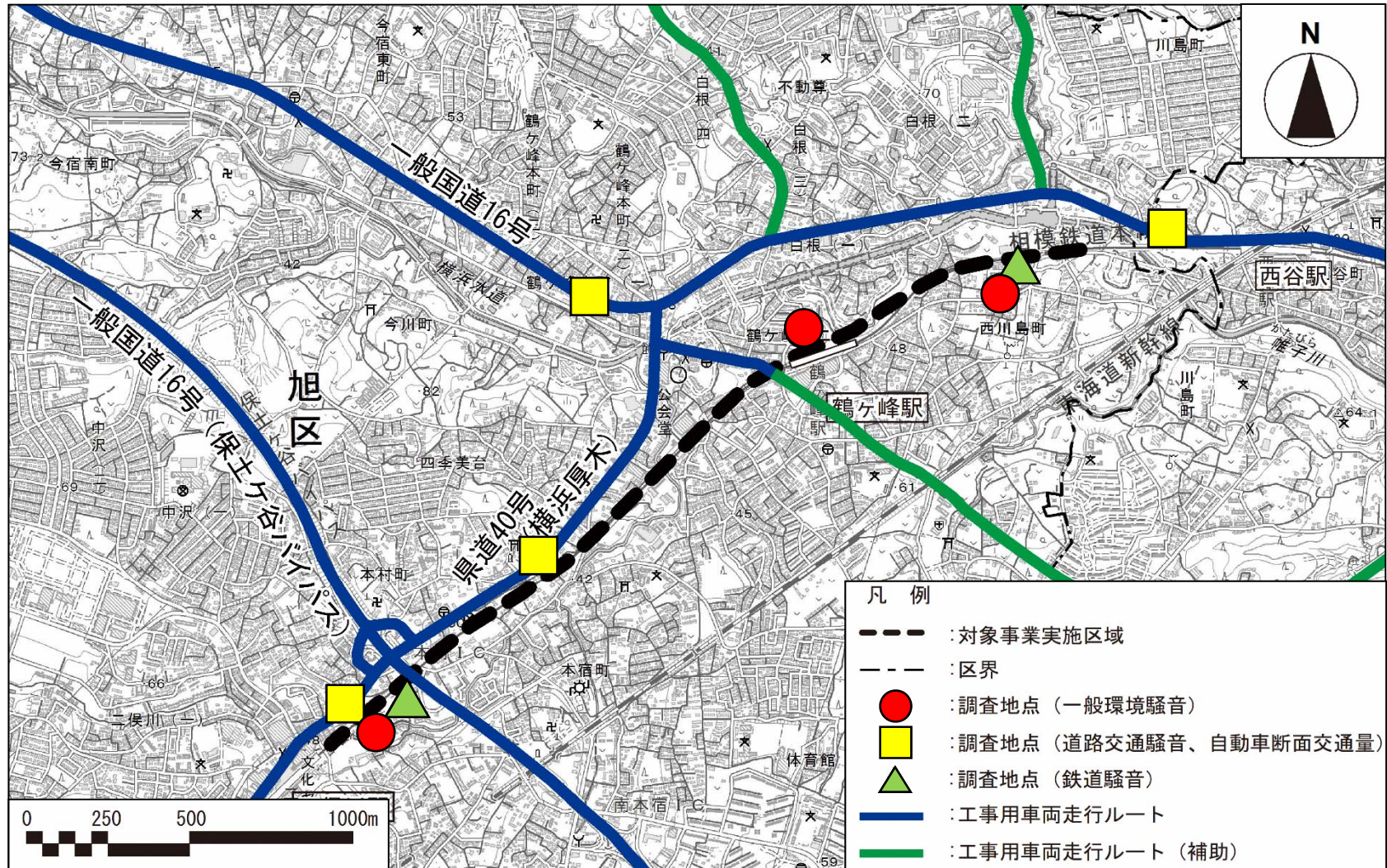
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事の実施に伴う公共用水域の水質	工事による影響が最大となる時期	工事排水を排出する公共用水域(河川)	浮遊物質質量について、完全混合式を用いて予測 水素イオン濃度について、想定される工事排水量と保全対策を重ね合わせ、影響の程度を予測

■調査手法

調査項目※	調査方法	
騒音の状況 ・一般環境騒音	現地	「騒音に係る環境基準について」に定める方法に準拠し、測定 ・平日(24時間)×1回
騒音の状況 ・道路交通騒音		
騒音の状況 ・鉄道騒音	現地	「在来鉄道の新設又は大規模改良に際しての騒音対策の指針について」に定める方法に準拠し、測定 ・平日(初電～終電)×1回
騒音の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	自動車断面交通量を測定 ・平日(24時間)×1回

※主な調査項目を記載

調査地域



■ 予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
建設機械の稼働に伴う騒音	建設機械の稼働による影響が最大となる時期	地上で建設機械が稼働する地域周辺の住居等の分布状況等を考慮した地点	「道路環境影響評価の技術手法」に示されている予測手法に準じ、予測
工事用車両の走行に伴う道路交通騒音	工事用車両の走行による影響が最大となる時期	現地調査地点(道路交通騒音)	「道路環境影響評価の技術手法」に示されている予測手法に準じ、予測
列車の走行に伴う鉄道騒音	列車が工事桁上を走行する時点	現地調査地点(鉄道騒音)	音の伝搬理論に基づく予測式により、等価騒音レベルを予測

■ 予測手法(供用時)

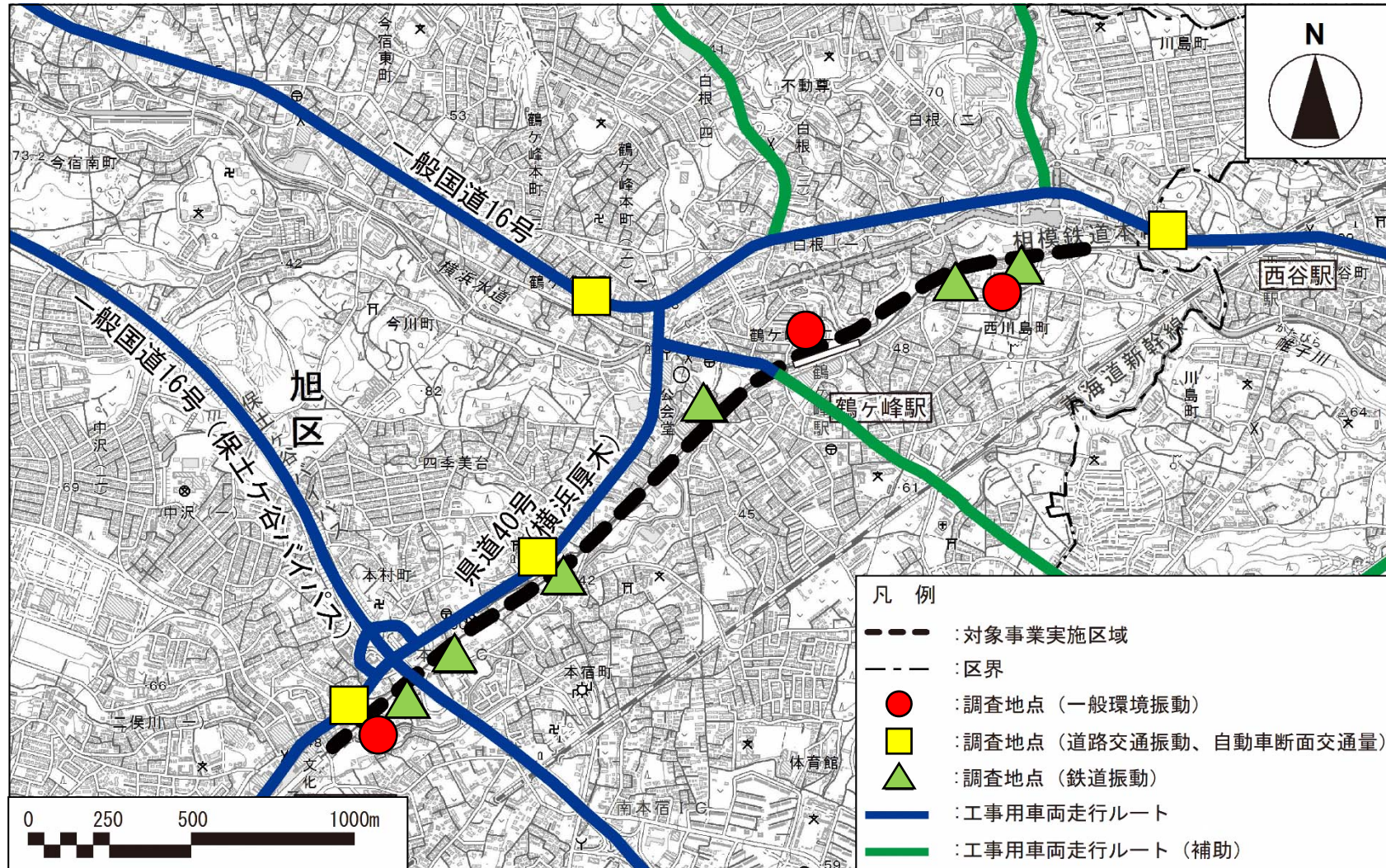
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
列車の走行に伴う鉄道騒音	鉄道の運行が定常状態に達した時期	現地調査地点(鉄道騒音)	音の伝搬理論に基づく予測式により、等価騒音レベルを予測

■調査手法

調査項目※	調査方法	
振動の状況 ・一般環境振動	現地	「振動レベル測定方法」に定める方法に準拠し、 測定 ・平日(24時間)×1回
振動の状況 ・道路交通振動	現地	「振動規制法施行規則」に定める方法に準拠し、 測定 ・平日(24時間)×1回
振動の状況 ・鉄道振動	現地	「環境保全上緊急を要する新幹線鉄道振動対策について(勧告)」に定める方法に準拠し、 測定 平日×1回 (鉄道振動が適切に把握できる時間帯に実施)
振動の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料	既存資料の収集・整理 及び 現地踏査
	現地	自動車断面交通量を 測定 ・平日(24時間)×1回

※主な調査項目を記載

■調査地域



■ 予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
建設機械の稼働に伴う振動	建設機械の稼働による影響が最大となる時期	地上で建設機械が稼働する地域周辺の住居等の分布状況等を考慮した地点	「道路環境影響評価の技術手法」に示されている予測手法に準じ、予測
工事用車両の走行に伴う道路交通振動	工事用車両の走行による影響が最大となる時期	現地調査地点(道路交通振動)	「道路環境影響評価の技術手法」に示されている予測手法に準じ、予測

■ 予測手法(供用時)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
列車の走行に伴う鉄道振動	鉄道の運行が定常状態に達した時期	現地調査地点(鉄道振動)	類似の既設線の測定データを基に予測

■調査手法

調査項目※	調査方法	
地盤変状の状況	資料	既存資料の収集・整理
地質の状況	資料	ボーリング資料を含めた既存資料の収集・整理

※主な調査項目を記載

■予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事の実施に伴う地盤の変化	工事による影響が最大となる時期	対象事業実施区域周辺	地盤の状況及び地下水の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

■予測手法(供用時)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
鉄道施設(地下式)の存在に伴う地盤の変化	地下構造物の完成後	対象事業実施区域周辺	地盤の状況及び地下水の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

■調査手法

調査項目※	調査方法	
過去の被災の状況 ・過去の風水害等の自然災害による斜面崩壊の状況	資料	既存資料の収集・整理
災害等に関わる地形、地質等の状況	資料 現地	地形図等の既存資料の収集・整理及び 必要に応じ現地踏査

※主な調査項目を記載

■予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事の実施に伴う急傾斜地の斜面崩壊の危険性	工事期間中	対象事業実施区域 周辺	急傾斜地の位置や状況と施工計画を重ね合わせ、安全な工事を行うための措置を整理し、定性的に予測

■調査手法

調査項目	調査方法	
地下埋設物の状況 ・対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況	資料	事業計画の整理及び既存資料の収集・整理

■予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事の実施に伴う 地下埋設物への 影響	工事期間中	対象事業実施区域周辺	対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況と 施工計画 を重ね合わせ、地下埋設物に係る安全を確保するための措置を整理し、 定性的に予測

地域社会（交通混雑、歩行者の安全）

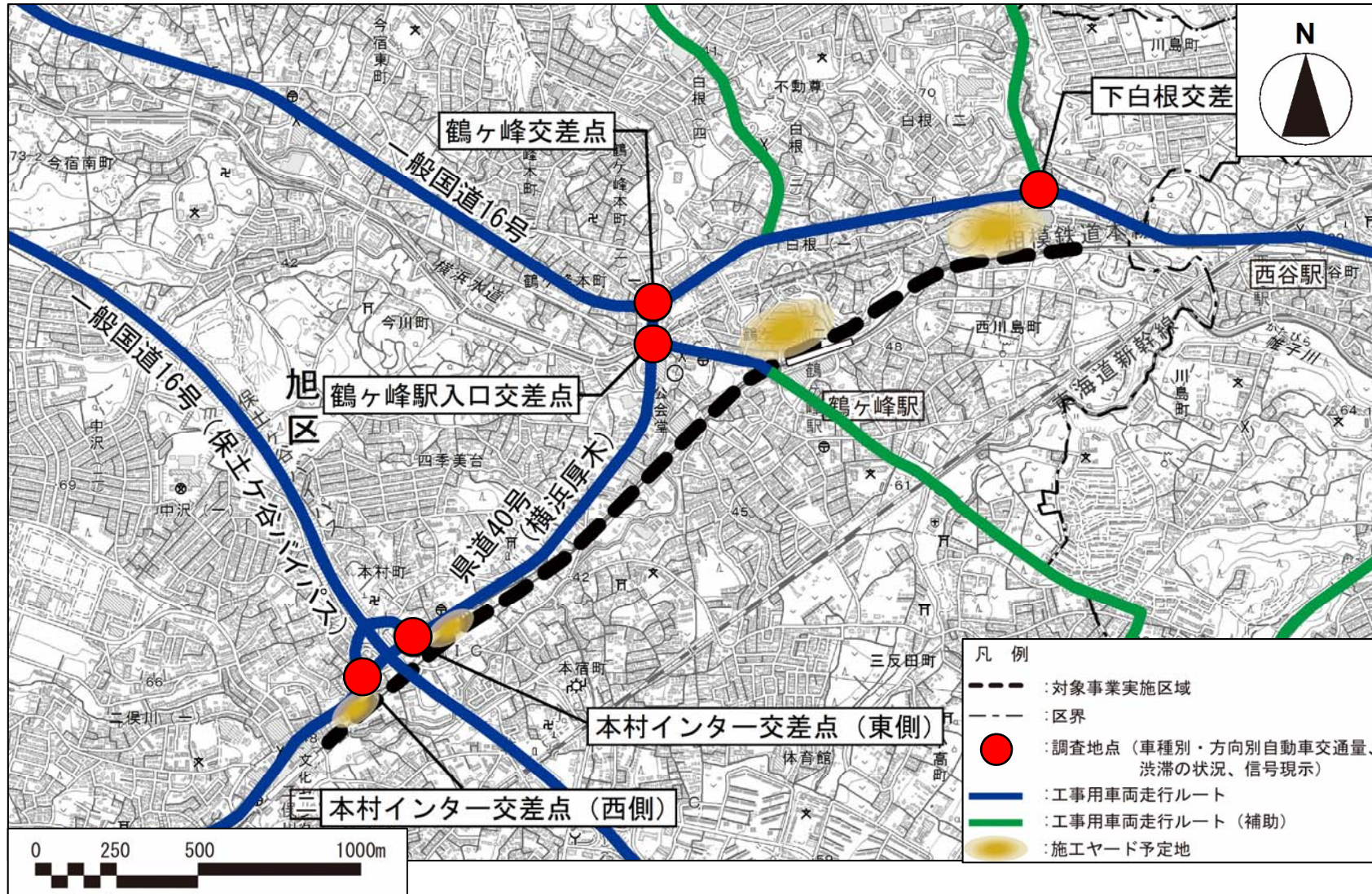
方法書p. 6-29

■調査手法

調査項目	調査方法	
<p>日常生活圏等の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等の位置 ・学区、通学路の状況 ・避難場所等の状況 	資料	区民生活マップ等の 既存資料の収集・整理
<p>地域交通の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な交通経路及び交通量の状況 ・主要交差点部における交通処理 ・交通安全対策の状況 ・交通事故の発生状況 	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
<p>歩行者の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な通行経路、歩行者数、歩行空間の幅員等 	現地	歩道部等の方向別 歩行者・自転車交通量 を調査 ・平日(12時間)×1回 歩行空間の幅員等を現地踏査により把握
<ul style="list-style-type: none"> ・主要交差点部における交通処理 ・交通安全対策の状況 ・交通事故の発生状況 	現地	主要交差点部における車種別・方向別 自動車交通量、渋滞の状況及び信号現示 を調査 ・平日(24時間)×1日

地域社会（交通混雑、歩行者の安全）

■調査地域



■ 予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事用車両の走行に伴う交通混雑(自動車)	工事用車両の走行台数が最大となる時期	現地調査地点	交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を予測
工事中の歩行者・自転車の安全		工事施工ヤード周辺	歩行者・自転車の状況等と施工計画を重ね合わせ、歩行者・自転車の安全を確保するための措置を整理し、定性的に予測

■調査手法

調査項目※	調査方法	
地域景観の特性	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
主要な景観資源の状況	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
主要な眺望地点からの景観	現地	写真撮影により把握

※主な調査項目を記載

■ 予測手法(供用時)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
鉄道施設(地表式)の存在により変化する 景観の状況	鉄道施設完成時点	現地調査地点(主要な眺望地点)	フォトモンタージュ作成により、景観の変化の程度を定性的に予測
鉄道施設(地下式※)の存在に伴う 景観資源への影響		帷子川親水緑道を中心とした対象事業実施区域周辺	調査で把握した主要な景観資源の状況と 事業計画 を重ね合わせ、 影響の程度を定性的に予測

※工事後に復旧する地下構造物直上の地表を含む。

触れ合い活動の場

■調査手法

調査項目	調査方法	
触れ合い活動の場の 名称、位置、規模、区域及び 分布状況等	資料 現地	・既存資料の収集・整理及び現地踏査 ・活動特性及び季節毎の利用状況等を現地にて把握
触れ合い活動の場の 活動特性、利用状況等		
触れ合い活動の場までの 経路、交通手段		

■ 予測手法(工事中)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事の実施に伴う 主要な触れ合い活動の場への影響	工事期間中	現地調査地域	調査で把握した 主要な触れ合い活動の場 の状況と 施工計画 を重ね合わせ、 影響の程度を定性的に予測

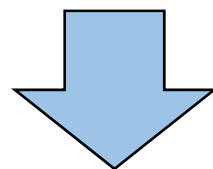
■ 予測手法(供用時)

予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
鉄道施設(地下式※)の存在に伴う 主要な触れ合い活動の場への影響	鉄道施設完成時点	現地調査地域	調査で把握した 主要な触れ合い活動の場 の状況と 事業計画 を重ね合わせ、 影響の程度を定性的に予測

※工事後に復旧する地下構造物直上の地表を含む。

評価の手法

- ・横浜市が定めた計画及び指針等の中で設定している目標
 - ・環境基準
 - ・法令等で定められている基準
 - ・地球環境に著しい影響を及ぼさない水準
- 等



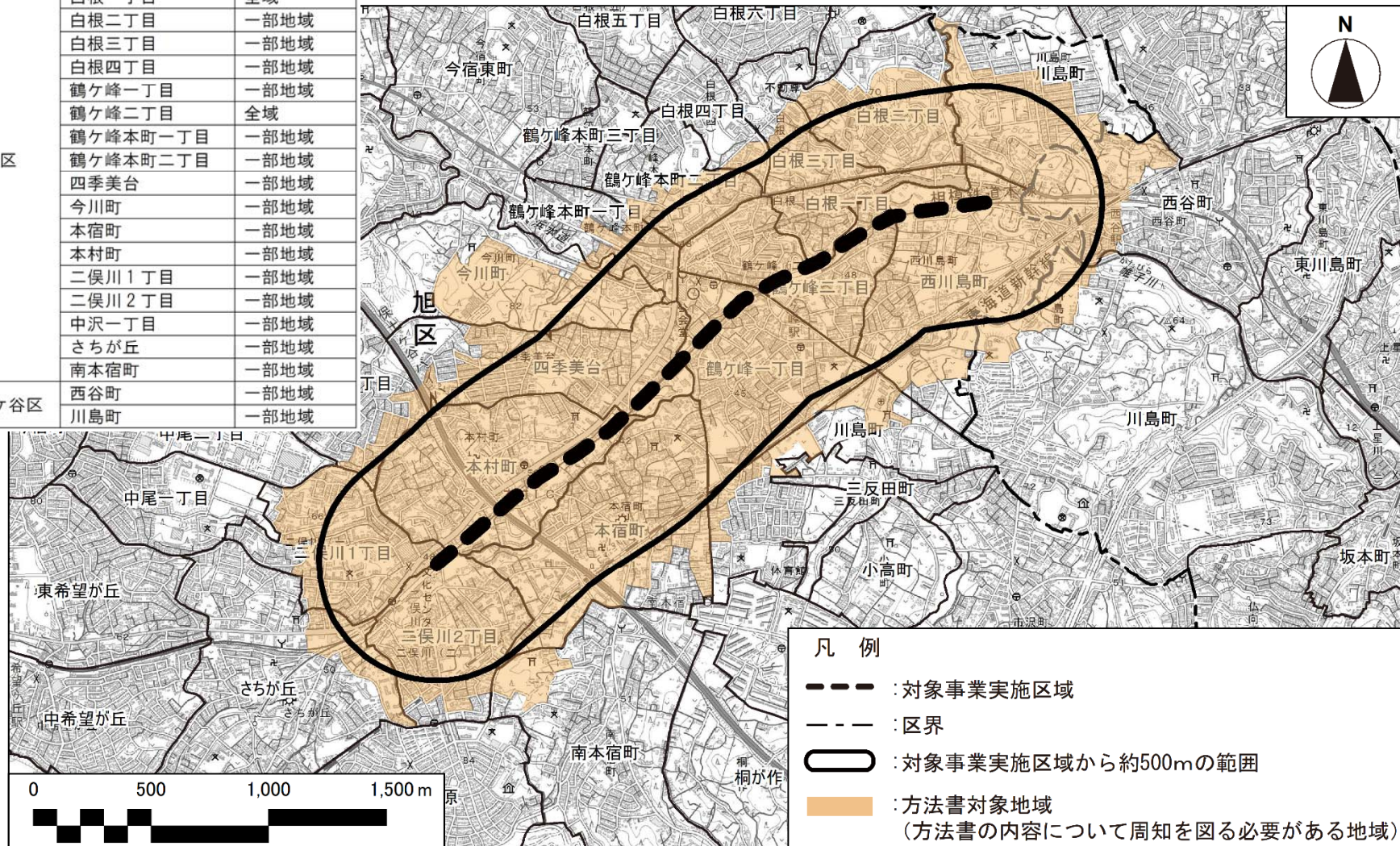
環境保全目標を設定

◆ 予測結果との対比により、評価

方法書対象地域

方法書対象地域

区名	町丁名	周知地域
旭区	川島町	一部地域
	西川島町	一部地域
	白根一丁目	全域
	白根二丁目	一部地域
	白根三丁目	一部地域
	白根四丁目	一部地域
	鶴ヶ峰一丁目	一部地域
	鶴ヶ峰二丁目	全域
	鶴ヶ峰本町一丁目	一部地域
	鶴ヶ峰本町二丁目	一部地域
	四季美台	一部地域
	今川町	一部地域
	本宿町	一部地域
	本村町	一部地域
	二俣川1丁目	一部地域
	二俣川2丁目	一部地域
	中沢一丁目	一部地域
	さちが丘	一部地域
	南本宿町	一部地域
	保土ヶ谷区	西谷町
川島町		一部地域



ご清聴ありがとうございました。